

令和7年度 学力向上のための重点プラン【中学校】 新宿区立落合中学校

■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1・令和7年5月9日】

授業作り	重点	主体的・対話的で深い学びをととして確かな知識・技能を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を向上させる。
環境作り		協働学習支援ソフトやデジタルドリルの活用、タブレット端末を使った課題作成・提出などをととしてタブレット端末を活用した学習をより日常化する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	・新宿区学力定着度調査では全体として平均点を上回っている。 ・知識・技能の正答率が比較的低い傾向がある。 ・領域では言葉・情報・言語文化の理解に関して課題がみられる。	・授業や家庭学習において反復学習を継続することで、知識・技能の定着を図る。 ・わからない語句をその場で調べることを習慣化させることで、語彙力の向上を図る。 ・発表活動を通して、情報を適切に表現し、伝える能力の定着を図る。 ・文学作品をととして、人間の感情や社会の在り方を考察することで、「言語文化」への理解を図る。	①小テストの実施 ②デジタルドリルの活用 ③語句調べ活動 ④発表活動の実施 ⑤読書感想文の指導
数学	・知識・技能に関しては新宿区学力定着度調査の平均をやや上回っているが、計算方法を確実に定着させ、より正確に問題を解く力の育成がさらに必要である。 ・思考・判断・表現においても同調査の平均を上回っている。 ・領域では、数と式では各学年とも同調査の平均を上回っている。 ・関数やデータの活用の領域では同調査の平均を下回っている学年もある。	・基礎学力の定着を図るために、デジタルドリルの活用も含めて反復学習を徹底する。 ・少人数授業の特性を生かし、一人ひとりの理解度を把握する。 ・数学的な思考・判断・表現に関する課題を意図的に設定し、グループ学習で主体的に取り組ませることをととしてこれらの力を育成する。 ・個別最適化された学習内容に取り組むことができるように、定期的にレポートを作成・提出させることをととして一人ひとりの学習状況を把握する。	①基礎・基本の習得の徹底 ②デジタルドリルの活用 ③話し合いや学び合い活動 ④場面に応じた発表活動 ⑤レポートの作成 ⑥習熟度別少人数授業の活用 ⑦デジタル教科書の活用
理科	・新宿区学力定着度調査では、区の平均を上回っている。 ・知識・技能よりも、思考・判断・表現の正答率が高くなっている。 ・領域では、第1分野(物理・化学)の正答率が低い傾向がある。	・授業の最初に前時の振り返りを行ったり、小単元の最後にデジタルドリル等の問題集を活用したりして、基本的な用語理解を図る。 ・演習を行う時間を確保し、計算などの技能が必要な問題にも十分に組みこませることをととして、物理・化学に対する苦手意識をなくしていく。 ・観察や実験、考察を生徒主体で取り組ませる指導を継続し、思考・判断・表現の力のさらなる伸長を図る。	①基本事項の徹底 ②デジタルドリルの活用 ③単元テストの実施 ④生徒主体の探究活動 ⑤振り返りシートを活用した、学習の定着率の確認及び授業計画
社会	・新宿区学力定着度調査では、平均を上回る生徒が一定数いる。 ・同調査では、基本的な問題よりも、思考・表現が必要な問題に対する正答率が高い。	・デジタルドリル等を活用し反復学習を継続したことが学習内容の定着に一定の成果があったことを踏まえ、今後も継続するとともに、反復学習の意義・効果を理解させ、社会科への苦手意識を持つ生徒の学習意欲を向上させる。	①小テストの実施 ②デジタルドリルの活用 ③生活と関連付けた教材研究 ④話し合いや学び合い活動 ⑤場面に応じた発表活動

	・一方で学習内容の定着が不十分なために苦手意識をもち、主体的に学習に取り組むことが難しい生徒もいる。 ・複数の資料から必要な情報を抽出し、関連付けて説明したり、事象について自分の言葉で表現したりすることに苦手意識をもつ生徒がいる。	・身の回りの社会的事象を学習内容と関連付けて理解できるようにする。 ・「例えば」(具体)と「要するに」(抽象)の2つの言葉を意識させることで、本質的な理解を深め、思考力の深まりへ繋げる。 ・自分の言葉で説明・表現をする際に、複数の資料を根拠にし、情報を関連付けて論旨を展開する活動をとおして、情報を抽出し、活用する力を育成する。	
英語	・新宿区学力定着度調査では、区の平均をやや下回っている学年がある。 ・会話を聞き、目的や場面、状況などに応じて、必要な情報を捉える力において課題がある。 ・日常的または社会的な話題について、事実や自分の考えなどを、簡単な語句や文を用いて正確に表現する力に課題がある。 ・自分の考えや気持ちを話すことや、書くことに対して苦手意識をもつ生徒もいる。	・目的・場面・状況を意識させるための導入を行い、内容理解のためのリスニングポイントを明確に設定した指導を継続的に行う。 ・各単元の言語材料を中心とした多様な表現を用いながら、書くことに関する言語活動の場を計画的・継続的に設定する。さらに、ペアや ALT、教員の添削を行い、表現上の正確性向上に繋げる。 ・授業中の生徒の様子を丁寧に見取り、振り返りや単元テストなどの結果等をもとに、生徒の学習状況を適切に把握し、授業計画を立てる。 ・帯活動などで、継続的に話す活動、書く活動を取り入れる。さらに、間違いやすいポイントを全体で共有しその対策を指導する。	①リスニング活動での本文導入 ②単元テスト・パフォーマンステストの計画的な実施 ③振り返りを活用した学習状況の把握および授業計画立案 ④ペアワークやグループワークの実施 ⑤タブレット端末やデジタルドリルの活用